



3. ろうきんSDGs行動指針に基づく労金連の取組み

ろうきんSDGs行動指針に基づく労金連の取組み	26
ろうきん森の学校	28



ろうきんSDGs行動指針に基づく労金連の取組み

労金連のESG投融資の取組み

持続可能な社会の実現に向けた経営の推進

労金連は、「ろうきんの理念」にある“人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与すること”を実現するため、経営方針に「社会的責任（CSR）を重視した誠実な経営」を掲げています。この経営方針を実践し、SDGsを達成していくため、持続可能な社会の実現に向け、勤労者を取り巻く社会的課題の解決に繋がる資金循環をつくりだしていく責任があると考え、ESG投融資に取り組んでいます。

ESG投融資の取組み

労金連は、ESG投融資を一層進め、内容の充実を図る観点から、2010年4月に制定した「労金連のSRI（社会的責任投資）原則」を見直し、2020年4月に「労金連のESG投融資原則」を制定しました。持続可能な社会を目指す金融の担い手として、投融資の判断にあたっては、財務分析に加えてESG（**E**：環境、**S**：社会、**G**：企業統治）の課題を考慮した取組みを実践しています。

責任投資原則（PRI）への署名

労金連は、2017年9月に〈ろうきん〉業態を代表し、国内預金取扱金融機関（信託銀行を除く）で初めて、国連が提唱する責任投資原則（PRI:Principles for Responsible Investment）に署名しています。

PRIとは、投資行動にあたって、投資先企業のESG課題への取組みに配慮することを宣言したものです。2021年5月30日現在、世界で4,000を超える機関投資家や運用会社等が賛同署名しています。

労金連は、PRIによる2020年の年次評価において、ESG投資に関する方針や体制を評価する「戦略とガバナンス」部門にてA評価、「債券（ソブリン債等）」部門では最高ランクのA+評価を獲得しました。

PRIの6つの原則

1. 私たちは、投資分析と意思決定のプロセスにESGの課題を組み込みます。
2. 私たちは、活動的な所有者となり、所有方針と所有慣習にESG問題を組み入れます。
3. 私たちは、投資対象の企業に対してESG課題についての適切な開示を求めます。
4. 私たちは、資産運用業界において本原則が受け入れられ、実行に移されるよう働きかけを行います。
5. 私たちは、本原則を実行する際の効果を高めるために、協働します。
6. 私たちは、本原則の実行に関する活動状況や進捗状況に関して報告します。

Signatory of:



ESG投融資推進委員会

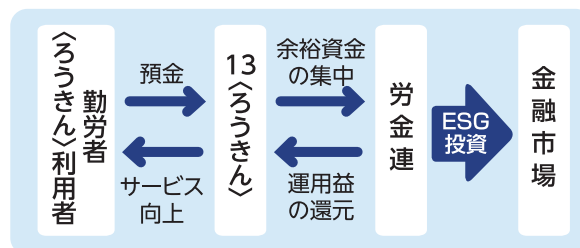
労金連は、「ろうきんSDGs行動指針」および「労金連のESG投融資原則」に基づき、ESG課題にポジティブな企業へ積極的に投融資するため、「ESG投融資推進委員会」を設置しています。

ポジティブスクリーニングの審査では、ESG課題の中でも「**S**：社会（労働環境）」に重点を置いた評価を行い、投資の判断材料としています。

開催頻度	原則月1回
委員	役員（執行役員を含む）、関係部長
審議事項等	1. ESG投融資推進に係る施策 2. ポジティブスクリーニングの審査 (1) 個別株・環境債・社会貢献債・ESGファンド等への投資に関すること (2) ソーシャルビジネスへの投融資に関すること 3. ネガティブスクリーニングの審査 4. 株主議決権行使に関すること 等

ESG投資の実践

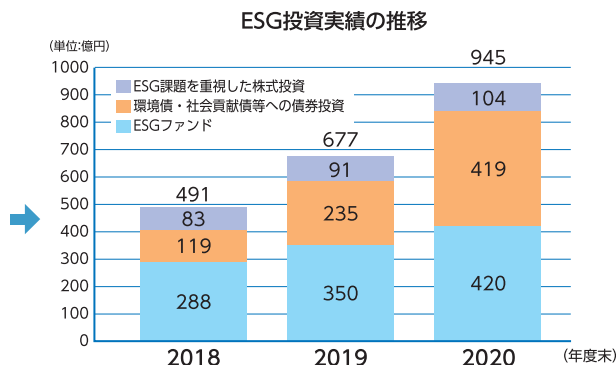
〈ろうきん〉は、会員や間接構成員の皆さまから預金としてお預かりした資金を、全国のはたらく仲間の生活支援として「住宅ローン」「教育ローン」「自動車ローン」といった貸出金として役立てています。労金連は、貸出金以外の運用可能な余裕資金を集中し、効率的に運用する中で、投資先企業のESG課題への取組みに配慮したESG投資を実践しています。



ESG投資の実績

2020年度末のESG投資の実績は下表のとおりです。

ファンド・債券・株式	投資残高	
	2019年度末	2020年度末
ESGファンドへの投資	350億円	420億円
環境債・社会貢献債等への債券投資	235億円	419億円
うち、サステナビリティ債	(81億円)	(116億円)
うち、環境債(グリーンボンド)	(84億円)	(170億円)
うち、社会貢献債(ソーシャルボンド)	(69億円)	(132億円)
ESG課題を重視した株式投資	91億円	104億円
合 計	677億円	945億円



持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)



労金連は、地球の未来を憂い、持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たしたいと考える金融機関の行動指針として策定された「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)」に署名しています。この署名は、21世紀金融行動原則の趣旨が、「ろうきんの理念」および労金連の経営方針に掲げる「社会的責任(CSR)を重視した経営」に通底するものであること、ガイドラインの取組事例と本会の実践内容が一致していることなどから2012年2月に行ったものです。

21世紀金融行動原則は、日本における環境金融の裾野の拡大と質の向上を目指し、持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たす取組みです。

労金連は、持続可能な社会の形成に向けた金融機関の責任と役割を認識し、この21世紀金融行動原則の趣旨に基づく取組みを推進していきます。

1. 自らが果たすべき責任と役割を認識し、予防的アプローチの視点も踏まえ、それぞれの事業を通じ持続可能な社会の形成に向けた最善の取組みを推進する。
2. 環境産業に代表される「持続可能な社会の形成に寄与する産業」の発展と競争力の向上に資する金融商品・サービスの開発・提供を通じ、持続可能なグローバル社会の形成に貢献する。
3. 地域の振興と持続可能性の向上の視点に立ち、中小企業などの環境配慮や市民の環境意識の向上、災害への備えやコミュニティ活動をサポートする。
4. 持続可能な社会の形成には、多様なステークホルダーが連携することが重要と認識し、かかる取組みに自ら参画するだけでなく主体的な役割を担うよう努める。
5. 環境関連法規の遵守にとどまらず、省資源・省エネルギー等の環境負荷の軽減に積極的に取り組み、サプライヤーにも働き掛けるように努める。
6. 社会の持続可能性を高める活動が経営的な課題であると認識するとともに、取組みの情報開示に努める。
7. 上記の取組みを日常業務において積極的に実践するために、環境や社会の問題に対する自社の役職員の意識向上を図る。

働きやすい職場を目指して

次世代認定マーク(愛称:くるみん)の認定、トモニンの取得

労金連は、仕事と子育ての両立を図るための制度・環境の整備、全職員がワークライフバランスを保ってはたらくことができる環境の整備に努めており、2016年の認定に続き、2020年2月7日付で東京労働局長より、「一般事業主行動計画」が「次世代育成支援対策推進法」第13条に基づく基準に適合するものであるとして「子育てサポート企業」の認定を受け、認定マーク(愛称:くるみん)を取得しています。

また、介護を容易にするための勤務時間短縮や時間外労働の制限・免除など、仕事と介護を両立しやすい職場環境整備に努めていることから、2020年2月に厚生労働省委託事業「両立支援のひろば」の一般事業主行動計画公表サイトに仕事と介護の両立に関する取組みを公表し、これにより「トモニン」を使用しています。



総労働時間削減に向けた取組み

職員のワークライフバランスの実現に向けて、ノー残業デー(部やセクション単位:年間48回、職場一斉:年2回)、年休取得強化月間(年3回)、連続休暇の取得の促進などの取組みを事業体と労働組合が共同して行っています。

インターンシップの受入れ

労金連は、2009年度から、勤労者のための福祉金融機関の社会的役割として、学生の自己理解と職業理解を促進させるインターンシップの受入れを行っています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点を踏まえ、インターンシップの受入れには至りませんでした。

ろうきん森の学校



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています。

■「ろうきん森の学校」は「森づくり」から「人づくり」、「地域づくり」につながる活動です

労金連は、2005年に創立50周年を記念して、「ろうきん森の学校」を開校しました。最初の10年間を「第1期」、2015年からの10年間を「第Ⅱ期」として、継続して取り組んでいます。

「会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与する」を理念に掲げる〈ろうきん〉と、「人・自然・地域の共生する暮らしの実践を通じて感謝の気持ちと誇りを持って生きている社会を目指す」を理念に掲げるNPO法人ホールアース研究所が共感・協働して、全国5地区のNPOと共に活動を展開しています。

これまでに、「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」が推奨する連携事業に認定されたほか、第5回いきものにぎわい企業活動コンテストにおいて「公益社団法人国土緑化推進機構理事長賞」を受賞するなど、各方面から、長期にわたる活動に対する評価をいただいています。

3つのキーワードと6項目の基本方針に基づく各地区の具体的な活動は、SDGsの「目標15.陸の豊かさを守ろう」はもちろん、「目標3.すべての人に健康と福祉を」、「目標4.質の高い教育をみんなに」、「目標13.気候変動に具体的な対策を」、「目標17.パートナーシップで目標を達成しよう」など複数の目標の連鎖的な達成につながっています。

活動の3つの柱



① 森を育む
 植樹、間伐・下刈り等の
 森林整備活動



② 人を育む
 森づくりや環境教育
 リーダーの育成



③ 森で遊ぶ
 里山を活用した自然体験・
 環境教育プログラムの
 開発と実施



【キーワード】

- ・ 厳しい環境の中で働く勤労者等に精神的な安らぎを与える「緑」
- ・ 身体を動かす喜びと「健康の維持」
- ・ 「地球環境保全」への共感と参画

【基本方針】

- ・ 地球温暖化防止に対して足元から取り組みます。
- ・ 地域の多様な自然を取り戻します。
- ・ 里山を活かした暮らしの提案・発信をします。
- ・ 森づくりから始める人づくりを行います。
- ・ 地域全体で活動に取り組みます。
- ・ 自律した運営を目指します。

2020年度活動紹介

各地区の森の学校は、①森を育む、②人を育む、③森で遊ぶを3つの柱として活動を展開しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各地区での活動の中止や縮小を余儀なくされました。労金連の役職員による森の学校プログラムへの参加も見送らざるを得ませんでしたが、各地区の森の学校では、フィールドの整備やスタッフのスキルアップに向けた研修の実施に加えて、“3密”を避けた新しいプログラムの開発や、プログラムのオンライン化などにも積極的に取り組みました。

3つの柱～①森を育む、②人を育む、③森で遊ぶ～に基づく各地区の取り組み

～森を育む～里山の整備・再生【福島地区】

毎年実施している海岸林整備は、新型コロナウイルスの影響により、県外からのボランティア受入れが困難だったため、団体会員にて行いました。

また、新たな自然学校の2022年度開校に向けて、先進地である鮫川村自然学校の視察やフィールド整備を行い、準備を進めました。



～人を育む～環境教育リーダーの育成【岐阜地区】

多様な森を育み、人々に安全で楽しいプログラムを提供するため、またコロナ下での新しいプログラム開発等に対応するため、スタッフ研修を実施し、スキルアップに努めました。



～森で遊ぶ～自然体験プログラムの開発【富士山地区】

従来の「食」・「宿泊」・「交流」を軸としたプログラムが実施できなくなり、“3密”を回避するため、家族向けキャンプや少人数に対応した高付加価値プログラム等、地域資源を活用したプログラムの開発に取り組みました。



～森で遊ぶ～オンラインプログラムの企画開発【新潟地区】

コロナ下で外出自粛を余儀なくされている子どもたちを対象としたオンライン自然体験プログラムを試行しました。現地での体験に近くよう、参加者とスタッフが双方向でコミュニケーションがとれる工夫をしながら実施しました。



地域の〈ろうきん〉との協働事業～地域資源や自然体験プログラムの価値を再認識した取り組み

【富士山地区】

「富士宮地区労福協55周年記念行事」の開催

富士宮地区労福協“若者の会”とホールアース研究所が共同企画・運営しました。イベント開催前後の感染予防対策を講じて迎えたイベント当日は、最高の天気にも恵まれ127組413名が参加しました。



【新潟地区】

新潟ろうきんの新入職員研修を実施しました。また、新潟ろうきんの有志による現地での活動を4回実施し、フィールド内の草刈りや階段整備、きのこ狩りや稲刈りを行いました。

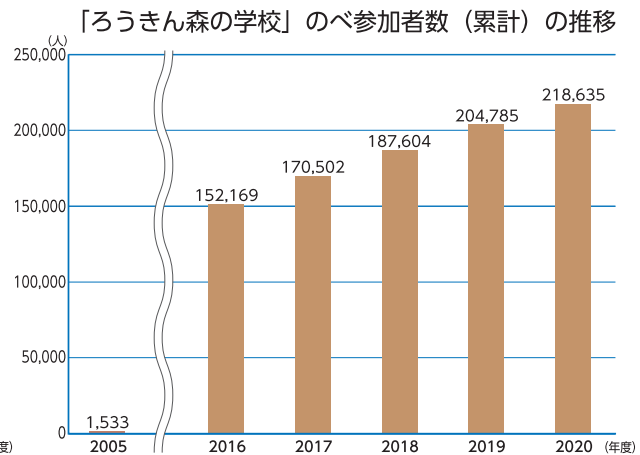
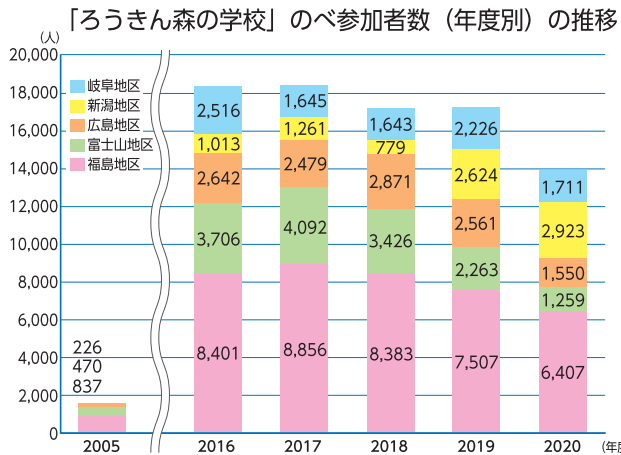


活動実績報告

■2020年度末までに21万人を超える方が参加

「ろうきん森の学校」は開校から16年目を迎えました。2020年度は、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、自然体験プログラムの価値が再認識された1年でもありました。各地区では、感染対策を講じ、試行錯誤しながらプログラムを実施し、13,850人が参加、2020年度末までの累計参加者は218,635人になりました。

今後も、「ろうきん森の学校」の新たな価値の創出に取り組めます。



<5地区の紹介・お問い合わせ先>

新潟地区(新潟県上越市)

現地事務局

NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部

上越市西部中山間地にあり、活動拠点である「くわどり市民の森」からは、地元の集落から日本海まで一望できます。棚田整備やわら細工体験など、地域の特色を活かした活動に取り組んでいます。



福島地区(福島県いわき市)

現地事務局 NPO法人いわきの森に親しむ会

福島県南部に位置するいわき市にあります。広大な市域には森・川・海のつながりと循環を体験できるフィールドが多数あり、活動拠点の「湯ノ岳山荘」には、自然エネルギー学習施設等があります。



岐阜地区(岐阜県美濃市)

現地事務局

NPO法人グリーンウッドワーク協会

長良川沿い、うだつの上がる街並みと和紙の里として知られる美濃市にあります。生木を加工して小物や家具を作る「グリーンウッドワーク」に取り組んでいます。



富士山地区(静岡県富士宮市他)

現地事務局 NPO法人ホールアース研究所

富士山南西麓の富士宮市(柚野、田貫湖)で同時に展開しています。柚野エリアの竹林整備を、ボランティア活動「里山つなぎ隊」として取り組んでいます。



広島地区(広島県山県郡北広島町)

現地事務局 NPO法人ひろしま自然学校

広島市内から車で約1時間の北広島町に拠点があります。農業用水用のため池として作られた万代池周辺の森を整備しました。地域のろうきん関係者と共に、森の学校フェスティバルと森の音楽祭を行っています。



全国事務局・富士山地区

NPO法人ホールアース研究所

〒419-0305 静岡県富士宮市下柚野165

TEL:0544-66-0790 FAX:0544-67-0567

(全国事務局) <http://www.mori-gakko.net/>

(ホールアース研究所) <https://www.wens.gr.jp/>

福島地区

NPO法人いわきの森に親しむ会

〒972-8326 福島県いわき市常磐藤原町湯ノ岳2湯ノ岳山荘内

TEL・FAX:0246-44-3273 <https://iwaki-mori.jimdo.com/>

新潟地区

NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部

〒949-1734 新潟県上越市大字増沢962-1

TEL:025-541-2602 FAX:025-512-1379 <https://kamiechigo.jp/>

岐阜地区

NPO法人グリーンウッドワーク協会

〒501-3701 岐阜県美濃市2973番地1

TEL:090-4793-9508 <https://www.greenwoodwork.jp/>

広島地区

NPO法人ひろしま自然学校

〒731-1221 広島県山県郡北広島町今吉田1197

TEL:080-4069-0786 <https://hs-gakko.wixsite.com/2005>